# 氏子町内の旧町名「石碑」めぐり《1》

市内には、旧城下町の町名や昭和初期の旧町名の由来を説明する石碑が、昭和62年以降現在まで、市教育委員会によって百二十余ヶ所に設置されており、そこには各町の歴史と特色が簡潔に記載されています。

松本市では新住居表示が、昭和42年から実施され、四十年近く経ていますが、人々のふだんの生活は、これら旧町による町会毎に営まれています。

当社の氏子四十八ヶ町の氏子総代の選出もこれに拠っています。そして四班に分かれ、総代の方々には年番をご奉仕いただいています。

これら氏子町内に設置されている旧町名「石碑」を、班毎に四回にわたり、紹介していきます。（なお、小路名石碑も含みます。）

## 【第一班】

### 本　町

一・二・三・四・五丁目

**◆本町の由来**

善光寺街道に沿う本町は松本城下の中心「親町三丁目」の一つで大手橋（現千歳橋）から袖留橋（現緑橋）までの一丁目から五丁目までをいう。発祥は松本城築城の頃とされ、各種の問屋が軒を連ねる松本城下の荷物の集散地であり経済の中心であった。

（平成二年建立　松本郵便局脇）

**◇生安寺小路の由来**

町人町・本町から東へ入る小路名。かつて生安寺（現在は蟻ヶ崎へ移転）を見通すことができる小路であったため、この名がついたといわれる。また三月・五月には節供のひな人形を売る店が軒を連ねたのでひな小路とも呼ばれた。

（平成四年　稲荷神社前）

**◇天神小路の由来**

町人町・本町五丁目から東へ入る一町名。本町から天神の社が見通せるので天神小路と呼ばれた。なお、ここには小笠原秀政時代に京都右近に模した天神馬場が設けられていた。

（平成六年　信学会信州予備校前）

### 伊勢町

一・二・三丁目

**◆伊勢町の由来**

町人町・本町の枝町の一町名。城下町西口の出入口にあたり西端には十王堂が置かれていた。町の規模は本町から出口まで東西三町五十六間　道幅三間半家数一九五軒で東から上丁・中丁・下丁となっていた。

（平成六年　Mウィング前）

### 新伊勢町

**◆昭和初年の旧町名　新伊勢町**

明治三十五年に篠ノ井線が松本まで開通し、松本駅から伊勢町や本町方面につながる通りとして新伊勢町がつくられた。町名は松本駅から伊勢町に通じる新しい町という意味である。

（平成十四年　JR松本駅前伊勢町口）

### 向　島

**◆昭和初年の旧町名　向島**

この町は大正の初期、松本城天守閣より南向うを眺めた時、薄川の手前を東西に流れる長沢川南添いに、四方を川に囲まれた地形が島のように見えたことから向島と命名された。当時の長沢川は現在の川幅よりも約三倍ほど広く、水は一面に漂い、川面にはアヒルなどが泳いでいた。

（平成九年　秋葉神社脇）

### 中条東

第一・二・三・四区

（「中条東」としての石碑は建てられていませんので第一～三区のかつての町名である末広町石碑を紹介します。）

**◆昭和初年の旧町名　末広町**

この地域は、明治時代になって川の名前に因んで長沢町といったが、大正三年四月に区長制がしかれると、長沢町は七区に分けられた。町名の由来は、町の形が西方が狭く東方に行くに従い扇方に広がっているので、末広の扇に因んで、町の発展の願いを込めて末広町と命名された。

（平成九年　第二地区公民館前）

## 松本深志舞台保存会だより〈1〉

松本深志舞台保存会が平成七年に発足して、この十月で満十年を迎えました。中心市街地の人口減などにより徐徐に廃れてゆくことを懸念して、舞台と舞台行事を保存し、伝承してゆくために、舞台を保有する氏子十六ヶ町の町内有志により設立されました。会長は一代太田勝彦氏（本町三丁目）、二代齋藤博氏（中町二丁目）です。

飯田町一丁目舞台嬢工式（5月8日）

当初は舞台の調査・歴史研究を主な課題として出発し、十一年から三年間、財団法人東日本鉄道財団から助成金を得て活動してきましたが、それらの成果により平成十三年七月には「松本市重要有形民俗文化財」に指定され、深志の舞台は町の財産にとどまらず市の宝として声価を高めております。

現在は、末永くこの舞台を維持し、その文化を伝え発展させてゆくため、傷みの激しくなった舞台の修理・復元を主な事業として活動を拡げております。

これまで博労町（平成11年）・本町三丁目（15年）・飯田町一丁目（17年）の修理が完了しました。現在、小池町の舞台が改修中で、来春桜の頃には美しい姿で竣工予定です。ご期待下さい。

小池町舞台解体式（7月18日）

## 信州松本松深会から



会長　高田裕任（ひろただ）

正忌一一〇〇年祭の中で最大の記念行事である、元禄十二年に藩主奉納の御神輿巡幸に地元の担ぎ手として奉仕したのを機に、それまであめ市・松本神社の祭りで長年神輿を担いできた面々に声掛けし、平成十四年に斎行された、五十年に一度の大祭菅公御

例祭での松深会萬燈神輿

十五年四月深志神社において白木造りの御神輿をお借りして総勢一二〇名で「信州松本松深会」を発足しました。

その後、新たに萬燈神輿を制作し、十六年からの例大祭では白張烏帽子に身を固めた担ぎ手による本社神輿、先導役としてのお囃子、萬燈神輿を奉仕させていただいております。

今後も、その名の通り、〝深い志しを以て松本を拠〟をモットーに、城下町松本の伝統文化を守り伝え、商都松本を盛りあげるべく、また青少年の健全育成、祭事、イベント等積極的にお手伝いができるよう頑張っていきたいと思います。

ぜひ皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。

## 『白線流し』ロケ・放映

白線流しロケ
富山慎司役の中村竜と橋冬美役の馬渕英里何

当神社の境内・社殿などが舞台として頻繁に登場し、全国に秀麗・優美な神社の様子が映し出されてきた、青春群像劇の連続テレビドラマ『白線流し』。

松本を舞台に若者七人の、高校生活と卒業後の、夢・悩み・友情・成長を描いて平成八年に、のち四回の続編スペシャル番組が放映され、主人公役TOKIOの長瀬智也や酒井美紀などの好演で感動を与えてきました。そして十年を経て、最終章「夢見る頃を過ぎても」が去る十月七日に放映されました。

今回も当社でのロケが行われましたが、これらは主人公の一人の実家が当神社という設定により、仲間の集う場、新年の様子、様々の祈る場面などに登場したものでした。この間、ロケ地巡りで参拝に訪れる白線ファンの多さには驚かされました。

今作で完結とのことですが、「白線流し」を通じて出会った彼、彼女たちの行く手を見守り続けていきたいと思います。

## 【後　記】

念願の社報を発刊することとなりました。氏子・崇敬者の方々と神社とをつなぎ結ぶ架け橋の一つとなればと願っています。

発行回数は年二回、次号は明年7月予定です。今後の編集に、ご意見や神社に関わる事柄・資料・写真などの情報、またお尋ねなどをお寄せください。【表紙題字の揮毫は、当社元神職、現筑摩神社宮司中村鈇氏です。】

宮司以下職員一同

ふかし　深志神社社報第1号
発行日　平成17年11月25日
発行所　深志神社社務所
〒390－0815
松本市深志3丁目7番43号
電話 0263－32－1214
FAX 0263－32－5908
印　刷　（株）日本広告

R100 古紙配給率100%再生紙を使用しています。

# ふかし

深志神社社報　第一号

深志神社は信州松本城下南深志の地
四十八ヶ町氏子の守り神さまです

御祭神

梅鉢紋　宮村宮　建御名方富命（たけみなかたとのみこと）（お諏訪さま）

桐の葉紋　天満宮　菅原道真公（天神さま）

## 社報発刊にあたり

宮司代務者　遠藤　久芳（ひさよし）

先代、故林克三宮司のあとをお受けして就任以来、はや一年半が過ぎました。もとより、四十年余に及び御奉仕され、幾多の業績を残された前宮司の後任としては甚だ浅学菲才の身と自覚しており、今後一層、自己研鑽に努め、神明奉仕に精進する覚悟であります。

神社は、氏子・崇敬者の皆様の祈りや願いを神様に申しあげ、お守りいただき、それらが叶うための「中とりもち」であることを念じ、まずは祭りを立派に行うことに努めたいと存じます。また、地域社会にあって人と人とを結びつけ、氏子の中での円滑な交流がなされることが大切であります。

神社の伝統を守り、御神徳の宣揚、維持運営、尊厳護持のため、総代会をはじめ、氏子町会・崇敬者の皆様方の変わらぬ御奉仕を切にお願い申しあげます。

この度、かねてより念願しておりました、当神社の「社報」を発刊する運びとなりました。今後、定期的に発行し、神社と氏子崇敬者の皆様との関わりの中で、一層その役割を増し、身近で、親しみのある神社となるよう尽力してまいりたいと思います。

## お宮の弥栄えのために

氏子総代会会長　金井　利暁（としあき）

昨年の役員改選で、永年奉仕された名会長春日信雄氏がご退任され、不肖私がご推挽により氏子総代会長の大任をお受けすることになり、身に余る光栄と存じ、ご社頭の発展興隆のため全力を尽くす所存であります。

元来学園都市であります松本市にあっては、昨年、大規模収容能力と最新鋭の諸施設を備えた市民芸術館が境内に接して、先年には市立美術館が近隣に建設されており、またNHK・SBC松本放送局なども隣地にあります。このように当社周辺は芸術文化の施設と発信の中心地へと発展しております。

一方、平成十四年には菅公御正忌千壱百年大祭記念事業として社殿神域が全面的に改修整備されました結果、氏神様・学問の神様として、いやますますのご神徳を仰がれている現状であります。

このたび社報「ふかし」発刊にあたり、当社の近況をご報告申しあげ、関係各位の変わらぬご支援と崇敬をお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

副会長
水野　秀一（ひでいち）

副会長
中村　欽哉（きんや）

## 深志神社氏子総代

平成十七年九月現在
58名
◎印　班長

第一班（年番　平成18年度）
古田　昭夫
長崎　俊夫
太田　隆治
川上　清
◎原田　竹雄
中村　欽哉
宮野　甫安
臥雲　毅安
鳩光博
内ヶ枝博
深澤　弘信
古畑　量一
窪田　彰
大前　芳雄
小瀬　隆晴
本町一丁目
本町二丁目
本町三丁目
本町四丁目
本町五丁目
伊勢町一丁目
伊勢町二丁目
伊勢町三丁目
新伊勢町
同
向島
中条東第一
中条東第二
中条東第三
中条東第四

第二班（年番　平成19年度）
宮村一丁目
同
宮村二丁目
博労町
同
長沢町
常盤町
栄町
同
梅ヶ枝町
東長沢町
幸町
錦町
武田信一郎
伴
◎山本　達男
伊藤　雄康
森下　和雄
竹内　文雄
小穴　隆一
金井　利曉
中島誠之助
水野　秀一
飯島　和彦
宮下　一夫
中澤　保行
清水中
清水西
清水池
東源池
南源地
同
北源地
日ノ出町
天神南小池町
同
宮田　進
黒田　正明

第三班（年番　平成20年度）
中沢　清
太田　滋
熊谷　郁男
◎岸　利行
朝倉　信雄
館石　賢治
青山　繁
高橋　登
伊藤　利八
平川　甚栄
岩垂　芳雄
遠藤　七郎
中町一丁目
中町二丁目
中町三丁目
清水東
同
清水中
清水西
東源池
南源地
同
伊藤
平川
岩垂
遠藤
宮田
黒田

第四班（年番　平成17年度）
大野　貞夫
谷川　清
原　勇
大澤　三郎
春日　信雄
◎山田　鵬
藤原今朝雄
笠井富士夫
関口　隆男
折井　重雄
武居喜美雄
斉藤　隆
伊藤　親利
隆旗　憲治
池田　廣
飯田町一丁目
飯田町二丁目
分銅町
西長沢町
西五町
国府町
神明町
小池町
同
巾上町
巾上中
巾上南
巾上西
鎌田班
鎌田町
同



# 四季折々の祭事・行事スナップ

7月25日　《例祭》渡御する神輿と町内舞台

7月24日　《例祭》宵祭での参詣

7月14日《八坂祭》宵祭　五色幟の奉納

5月1日　絵馬焼納式

2月3日　《節分祭》豆炒り式

新年　雪の参道

9月8日　宮村祭宵祭直会
（宮村一・二丁目町会の人たち）

7月25日　《例祭》献幣使祭調奏上

5月11日　東海五県神社庁大会参加
（内宮参拝）

3月29日　奥学祭での小学校入学の子供たち

元旦　二年詣りのご社頭

11月　七五三参り

8月12日　第二地区盆踊り（神楽殿）

7月18日　焼却炉設置火入れ式

7月15日《八坂祭》氏子総代表彰式

8月　青山様でお参りの子供たち

7月4日　中川治雄先生講演会
（氏子総代会定期総会で）

3月　深志保育園の園児
（天神会館を3月まで半年貸与）

1月7日　産業安全祭

## 北参道石玉垣竣工と刻銘ご奉賛

まつもと市民芸術館の建設に伴い、北参道付近と芸術館との境界をなす神苑東境の石玉垣建設事業を平成十五年末から進めてきましたが、この六月に第二期刻銘工事を完了しました。

玉垣竣工と同時に刻銘を行った第一期とあわせて一六三本の刻銘奉賛をいただいたことになります。

これら刻銘の方々には神社を日々見守っていただくこととなります。

奉賛者のお名前は左記のとおりです。皆様方の心よりのご芳志に篤く御礼申しあげます。

なお、引き続き第三期の刻銘奉賛募集を行っておりますので社務所へお問い合わせ、お申し込み下さい。

竣工した北参道石玉垣

## 石玉垣刻銘奉賛者ご芳名

※刻銘あいうえお順を基本。敬称略。
なお（　）内は奉賛者ご芳名です。

【親柱】8本

八代岡野庄平
岡野薬品株式会社
春日信雄・春日孝介
金井　利暁
竹内　淨（功）
中田武夫・兵次
中町一丁目・中町二丁目・中町三丁目
百瀬　賢志
赤羽　孝一郎
赤羽　治人
浅川　靖市郎（雅史）
朝倉　信雄
飯田　森繁
井口　信一
石井　邦守
石川　敬明
石川　敬昭
石曽根正勇
多湖　ひろ子
舘石　真一路（賢治）
千国　武雄
手塚　雄司
中澤　保行
中島　誠之助
株式会社中島塗装店
永田　武一郎（歌子）
中谷　和義
中西屋市川酒店
（市川英夫）
二村　善兵衛
野本　直昭（喜永）
橋詰　忠明
長谷川　稔
花崎　昌布
原田　竹雄
伴　好弘
平川　甚栄
深澤　弘信
二木　辰夫
鮒井　幹尚（正利）
隆旗　憲治
古畑　量一
お人形のベラミ
みむら（三村隆重）
株式会社マサムラ
松田　弘
松本土建株式会社
丸山　景司
丸山　公正
丸山　彰一
丸山　文造（佳子）
水野　一也
水野　恵子
水野　経子
溝口　保（たき江）
溝口　賢仁
宮川　賢久
宮澤　一男
宮下　八廣
村上　素臣
桃井　照三
百瀬　松美
百瀬　清和
百瀬　智明
百瀬　包子
百瀬　隆之
百瀬　隆義
森田　孝
山内　庄三郎（峯雄）
山岸　清勝
山岸　行雄
山田　幸司
山田　鵬
横山　善男
吉崎　勝男
與曽井謙吾
若宮　基男

【小柱】113本

一志　忠廣
伊東　敏文
乾　晃和
井上　好弘
遠藤　七郎
小穴　真一（隆一）
大池　春人
大澤　五十六
太田　勝彦
太田　澄子（勝彦）
太田　隆治（同）
太田　ますみ（同）
太田　匠一（同）
太田　かな（同）
大塚　袈裟六
大野　正信
大野田國夫
小日向辰男
上村　保弘
川上　明彦
岸　利行
岸　伸晃
熊谷　武久
黒田　正明
小泉　清
小泉　辰哉
児島　一幸
小林　秀次
澤本　宗二
清水　正晴
白井　榮一郎（忠明）
倉沢　健
神明町会
鈴木町町会
鈴木　恵（太田勝彦）
鈴木　康子（同）
鈴木　譲（同）
鈴木　瑛梨（同）
大成産業株式会社
（三木）
高戸　将男
高根　基
武井　哲次郎
武井　惟彦
武田　信一郎
武田　静明
武田　高明
田中　厚志
田中　伸一
田中　正晴
畠　健治
畠　速人
長崎　慎治
中澤　清
中村　欽哉
中村　道紀
吉宏
幸司
隆旗　幸司
松村　理一郎
宮野　甫安（主）
村山　守（主）
山田　四郎吉（久代）
若宮　功
佐々木秀雄
住吉　康則
竹内　資安
瀬原田久隆
飯島　和彦
井垣　芳明
伊藤　親利
伊藤　博敏
井上　智弘
小穴　隆一
大澤　三郎
折井機械株式会社
（折井重雄）
金井　宏道
川上　清
清澤　昭夫
清澤　梁一
草深　昭嘉
草間　鼎
株式会社五千尺
後藤　正義
小林　傳衛
相澤　英伸
秋山書学院
（秋山博見）
小穴　春人
大澤　五十六
太田　澄子（勝彦）
太田　隆治（同）
太田　ますみ（同）
太田　匠一（同）
太田　かな（同）
大塚　袈裟六
大野　正信
大野田國夫
小日向辰男
上村　保弘
川上　明彦
岸　利行
岸　伸晃
熊谷　武久
黒田　正明
小泉　清
小泉　辰哉
児島　一幸
小林　秀次
澤本　宗二
清水　正晴
白井　榮一郎（忠明）
倉沢　健
神明町会
鈴木町町会
鈴木　恵（太田勝彦）
鈴木　康子（同）
鈴木　譲（同）
鈴木　瑛梨（同）
大成産業株式会社
（三木）
高戸　将男
高根　基
武井　哲次郎
武井　惟彦
武田　信一郎
たき江
宮川　賢久
宮澤　一男
宮下　八廣
村上　素臣
桃井　照三
百瀬　松美
百瀬　清和
百瀬　智明
百瀬　包子
百瀬　隆之
百瀬　隆義
森田　孝
山内　庄三郎（峯雄）
山岸　清勝
山岸　行雄
山田　幸司
山田　鵬
横山　善男
吉崎　勝男
與曽井謙吾
若宮　基男